

# 2023 年度 第 17 回女子美ミラノ賞報告書

2023.9.24 - 2024.3.23

江原 梨沙子



## はじめに

第17回女子美ミラノ賞によりブレラ国立美術学院への留学、そして半年間ミラノに滞在研究する機会を与えてくださった大村先生、女子美術大学の先生方、学生支援センターの皆様、渡航に当たり多くのサポートをしてくださった先輩方、清水先生に心より感謝を申し上げます。イタリアでの掛け替えのない貴重な経験を今後の自身の作家人生の糧にし、より一層精進して参ります。

江原 梨沙子

|       |           |                                                              |
|-------|-----------|--------------------------------------------------------------|
| 略歴    | 2013      | 女子美術大学付属高等学校卒業                                               |
|       | 2017      | 女子美術大学芸術学部美術学科日本画専攻卒業                                        |
|       | 2018-2019 | パリ国立高等美術学校 交換留学                                              |
|       | 2020      | 東京藝術大学大学院美術学部 油画専攻壁画第二研究室修了                                  |
| 展示    | 2018      | 「Cinematic scape」masataka contemporary                       |
|       | 2020      | 令和一年度 東京藝術大学卒業修了制作展                                          |
|       | 2021      | 「孤帆の遠影」MONTBLANC×TheChain Museum（東京）                         |
|       | 2022      | 個展「furesuco」Galerie89（パリ）                                    |
|       | 2023      | 個展「L'étranger」RISEGALLERY（東京）<br>「MINI〇展」sansiao gallery（東京） |
|       | 2024      | POLA ANNEX 展 2024 -表彰と趣意-<br>ART FAIR TOKYO 2024             |
| 受賞/助成 | 2014      | 第26回三菱商事アートゲートプログラム入選（以降29.45回）                              |
|       | 2017      | 渋谷芸術祭 SHIBUYA ART AWARD2017                                  |
|       | 2021      | 公益財団法人 ポーラ美術振興財団在外研修員（フランス）                                  |
|       | 2022      | 第17回女子美ミラノ賞                                                  |
|       | 2024      | 公益財団法人 吉野石膏美術振興財団在外研修員（フランス）                                 |

## 目次

- 1:ミラノ滞在の動機
- 2:研究活動の目的と内容
- 3:ブレラ国立美術学院
- 4:制作と展示
- 5:壁画を巡る旅
- 6:イタリア生活
- 7:イタリア滞在を通して印象的だったこと
- 8:今後の制作活動

### 1. ミラノ滞在の動機

私が制作において扱っているフレスコ画はイタリアの技法であり、かねてよりイタリアに長期滞在をすることで西洋壁画について現地で考察し学びたかった。壁画と絵画、西洋美術の歴史的文脈を思考しそれに基づいた滞在制作を切望していた。また、パリを拠点にフランスの美術や現代美術に触れている中で、やはりイタリア美術の存在の重要さを節々に感じ、イタリアの美術と歴史的な文脈を現地で本物を見て学びたいと思ったことがミラノ賞応募へのきっかけである。

また2022年の2月頃パリにて滞在中、建築事務所を構える田根剛氏の元へ訪れる機会を頂いた。その際にイタリアを縦断して巡った教会壁画の写真をいくつも見せて頂いた。中でもミラノにあるCiesa di San Marcoの壁画が素晴らしかったと話を頂いた。翌月にイタリアラヴェンナへ行く計画を立てていたが、ミラノへも足を伸ばすことにした。ミラノで実際に壁画を見て、時空と図像の関係性、絵画としての分厚さに非常に感化された。その際にやはり次はイタリア、ミラノだと確信したことも重要な動機のひとつだった。

### 2—1. 研究活動の目的

私はフレスコ画とその修復技法であるストラッポ技法を用いた作品制作をしている。フレスコ画の本場イタリアで改めて絵画技術と歴史、壁画と建築と空間の関係性を思考し、自身の作品を展示させる。またミラノをはじめ現存する壁画が残る遺跡や美術館を訪れ研究する。また、近年イタリアでも継承者が減ってきているフレスコ画の技法と、日本画の顔料や技術を組み合わせた作品展示を通して、壁画と日本画の魅力を伝えることが目的である。日本では出会えない人との出会いや機会を大切に、旅行や短期滞在では得られないことを学び体験する。

## 2-2. 研究活動内容

### 1. イタリアに現存するフレスコをはじめとする壁画に関する研究

イタリアでは保存修復の組織が他国よりも優れており、多くの壁画や建築が残る歴史深い国である。レオナルドダヴィンチの最後の晩餐をはじめ、ナポリ、ポンペイやアッシジのフレスコ画、考古学博物館、ピサにあるフレスコ画とその下図層シノーピアの美術館を訪れ、技術や歴史保存修復の実態を調査する。また壁画模写にも取り組み、素材と技術をより理解します。壁画と建築と空間の関係性についても思考を深め、作品の設置法の工夫や、作品に生かす。

### 2. 壁画と現代アートについての研究と制作

近年ミラノの街には現代美術館やギャラリー、アーティストインレジデンスが増え、現代アート市場も盛んである。週末などを利用してそれらに積極的に訪れ、そして歴史深くも現代的要素も兼ね揃えたミラノの街で制作し先生や学生達と交流することで自身の制作の幅や可能性、思考力を広げる。

### 3. 展示

日本画の顔料と壁画の技術を組み合わせた作品発表をする。近年ではイタリアでもフレスコ画やその修復技法の継承者が減少している。展示を通して、日本とイタリアの絵画の歴史や素材技法について改めて思考、実践し、今後の制作活動へ繋がります。フレスコ画を扱う作家として優れた壁画が多く残るイタリアでの半年間の滞在で時間をかけて、フレスコ画と自身の制作に向き合い研究する。





### 3. ブレラ国立美術学院 2023 10/23- 2024 2/21

授業が正式に始まるのが10月末からのスタートだった。はじめは様々な授業を見学し、デッサンの授業や絵画の授業に行き先生との面接や、生徒達の作品を見させて頂いた。ブレラの学生は絵を勉強し始めた生徒が多いという印象だった。私は主にイタリア中世美術史とイタリア語のみ集中的に参加した。展示の為に一時帰国している最中に殆どの授業が終わってしまったことは残念だった。

#### ●Pittura(絵画): Pizzizicini 教授

絵画とデッサンの授業を履修したが先生と面談をしたところ、先生がアドバイスするよりも色々な物を滞在の中で見に行った方が良くと仰ってくださった。天気の良い日には時間を見つけて、見たいものを全て見に行くことにした。美術史の授業や清水先生に紹介して頂いた絵画や壁画を実際にすぐ見に行ける環境は本当に恵まれていた。



#### ●STORIA DELL' ARTE MEDIEVALE (中世美術史): Corgnati Martina 教授 イタリア中世美術史の授業、毎週月・水曜日の各3時間。

個人的に非常に面白く、大変勉強になった。イタリア中世美術史と歴史的背景の授業。主に教会建築や壁画、美術品を時代順にそれらの特徴や先生が考える重要な観点を多くのスライドを用いて紹介される。ビザンティン美術から始まり、ロマネスク建築の魅力、この授業で見ることがなかったら知ることでもなかった素晴らしい壁画、フランスやドイツとの相互影響の歴史など沢山知ることが出来た。イタリア語だったので全てを理解するのは難しかったが、翻訳機やネットで調べ、書き取りをしでける限り理解するよう取り組んだ。この授業のおかげでミラノをはじめとするイタリアの歴史についてもより深く知ることができた。



#### ●ITALIANO イタリア語 毎週水曜日 16-19 時

週に1回3時間のイタリア語初級の授業。単語や文法、簡単なセンテンスは勿論、イタリア出身の歌手や現代アーティスト等も知ることができた。また様々な国(ルーマニア、ポルトガル、ブルガリア、中国、韓国等)から来た友人ができ、授業や試験のあとよく皆で食事に行き、お互いの国の話をしたり聞いたりしたことはとても良い思い出になった。日本は多くの国の人に文化が知られている。殆どの人に美しい国だと言ってもらえる国はあまり多くないと感じる。

## 4. 制作と展示

### 1. 制作

はじめにイタリアで過ごす半年間という限られた中での時間の使い方の優先順位を考え、自身の制作を最優先にした。ブレラではスペースの問題上、個人の制作場が設けられなかったため、自宅の半分を作業スペースとした。主に POLA ANNEX でのグループ展と東京アートフェアのための制作に取り組んだ。新作13点を制作した。初めフレスコ用の画材がすぐに見つかるか心配であった。Brico center(ホームセンター)で、「川砂はありますか？」と聞いたら「ない」と即答されたが、言い方を変え「フレスコ用の砂はありますか？」と聞いたら「それならある」とすぐに案内してくれた。流石壁画の国だと思った。Brico center には画材を調達しによく通った。

イタリアで多くの壁画を見ていくうちに、フレスコ画の技法と素材について(歴史、場所、支持体、色、顔料、図像の劣化の仕方)考えさせられた。根本的なことではあるが、フレスコ画は建築物と一体化している絵画である。ほとんどのフレスコの支持体は建築物(あるいは漆喰)であることを再現したく、今まではパネルやキャンバスを支持体としていたが、スタイロフォームを原型に用い漆喰で覆った壁画の欠片(石)のような変形の支持体を制作した。額縁の四角形やパネルの形に捉われることなく展開ができる。絵画でもあり同時に建築(の一部)でもある。今後は絵の以前の姿を考えさせられるような支持体の形、厚み、凹凸、層を考えた制作にも取り組んでいきたい。





### ◆壁画の欠片・石板

制作にあたり、自由な形への着想源になった壁画の欠片たち。それぞれ異なるいびつな形態は建築の一部ということを想像させられる。壁材も作品の一部にしたいと考えた。またトリノのエジプト博物館で大量の良質の作品をみて、よく見ていくと作家性が見えてきたり、天然顔料の美しさ、モチーフのかわいらしい描き方からエジプト美術の魅力にも感化された。



### ◆壁画の亡霊性

フレスコの経年変化で石灰分によって図像が一部白濁したり、描画層が欠落し、まるで亡霊かのように存在していることは少なくない。筆で表現しようとしても表現しきれない、時間が作った壁画の最大の絵画としての特徴と魅力である。



・Pinacoteca di Brera (MI)



・Bologna San Vitale



・Milano Basilica di San Lorenzo





・Santa Maria Maggiore di Bergamo



・Basilica di Napoli



・Basilica di San Marco(MI)

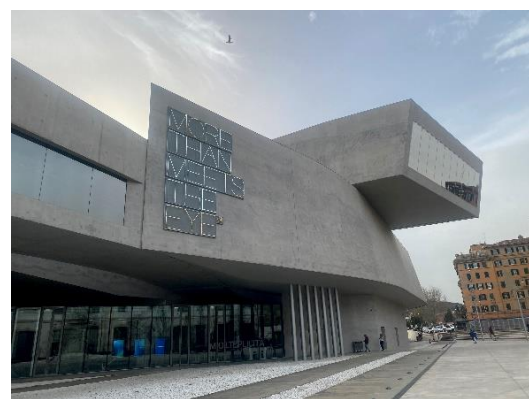
### ◆建築と壁画

イタリアでは国が芸術文化にかかるお金の8割が文化保存修復であることがよく分かるほど、実際に多くの壁画が元ある場所で実際に見ることができた。(修復中の現場も多く見ることができなかったものもいくつかあった。)フレスコが多く残るロマネスク建築からバロック、ゴシック、近代建築まで多岐にわたる。建築に付随する壁画の役割ということもよく考えさせられた。アッシジを訪れた際、土曜のミサが催されていた。アッシジには世界各国から人が集う為、ミサは珍しく英語で進行していた。今まで拝見してきたミサの中でも、敬虔な信仰を感じるとても美しいミサの一つだった。日本ではあまり感じる事のない一神教の信仰心の強さを感じた。教会の壁画が人々の日々の信仰の為に描かれていることまたモザイクは絵画の起源でもあることを再認識した機会となった。

また以前より興味のあったブルータリズム建築であるが、Grafton Architects の近代建築(\*1)を見て、ブルータリズムの現代版に出会った。その構造感を組み取り入れるような制作も面白いかもしれないと感じた。その他にもオスカー・ニーマイヤーやザハ・ハディド(\*2)など日本ではなかなか見られない建築家の作品も積極的に見に行った。建築的で壁画のような現代絵画、よりオリジナリティーな作品制作を目指したい。



(\*1)



(\*2)



## 2. 展示

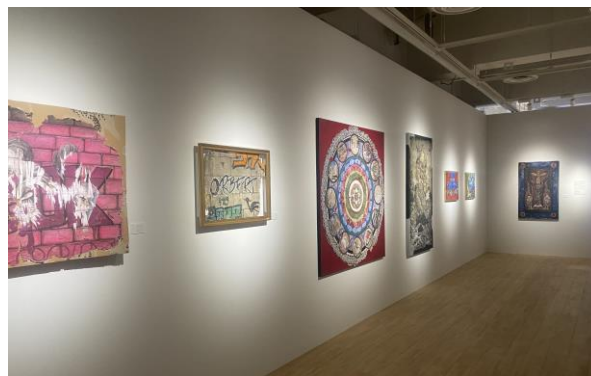
### 1. ポーラ ミュージアム アネックス展 2024 ―表彰と趣意―

2024年2月9日(金) - 3月10日(日)【31日間】

参加アーティスト: 西田秀己・砂田百合香・江原梨沙子

会場: ポーラ ミュージアム アネックス 主催: 公益財団法人ポーラ美術振興財団

展示にあたり大型の作品制作、作品受け渡し、会場設置そして内覧会に参加するために、許可を頂き一時帰国をした。半年間に及ぶ展示までの準備から搬入、設置、内覧会と参加することが出来、多くの方にご高覧頂き、意見や感想は大変勉強になった。



### 2. ART FAIR TOKYO 2024 年3月6日～10日

会場: 東京国際フォーラム 主催: 公益財団法人ポーラ美術振興財団



©POLA MUSEUM ANNEX

## 5. 壁画を巡る旅 イタリア 31 都市を巡る

イタリアは州によって美術をはじめ、都市構造、食、そして数多くの世界遺産がそれぞれ異なった多くの魅力に溢れており、その土地土地の文化の比較を半年にわたりじっくり味わえたことは贅沢な時間だった。南北合わせて主に壁画と建築を巡るため合計 31 都市を巡った。街の構成、新市街と旧市街、各地の伝統料理も本当に美味しく五感で多くのことを吸収することができた。

1: Milano 2: Torino 3: Mantova 4: Pisa 5: Alessandria 6: Firenze 7: Piacenza  
8: Napoli 9: Matera 10: Brescia 11: Bergamo 12: Varese 13: Rovereto 14: Verona  
15: Sansepolcro 16: Perugia 17: Assisi 18: Arezzo 19: Siena 20: San Gimignano  
21: Pienza 22: Cinqueterre 23: Genova 24: Palermo 25: Monreale 26: Cefalù  
27: Piazza Almerina 28: Bologna 29: Ferrara 30: Pavia 31: Roma  
(★刺激を受けた指数: 美術(壁画)・街の 2 つの観点より)

### 1: Milano ★★★★★

近代建築、ファッションデザイン、アートとローマ時代の遺跡が混ざり合う街。印象的だったのは4世紀に建設され14世紀に取り壊された Duomo の地下で見られる洗礼堂跡である。

Duomo 広場の歴史をはじめ街の変遷を知ると、ミラノをまた違う視点で捉えることができた。ミラノを拠点に北イタリアを巡り、ミラノに帰ってきては街を散歩しながら旅を振り返る時間もとても特別な日々だった。



・Battistero(洗礼堂跡)

### 2: Torino ★★★★★☆

古代エジプト美術の壁画の資料を調査する為、エジプトの次に膨大なコレクションをもつと言われるトリノエジプト博物館を訪れた。ヨーロッパに滞在する中で、日本にいる時よりも、エジプト美術を目にする機会が自然と増え、興味を持った。初めは歴史考古学的な印象であったが、みていくうちに作家によって絵柄の質が異なり、アートの視点で見るようになった。紀元前2000年の作品にもかかわらず、保存状態が良く時空を超えて現代に残っていることに感心する。





## 2:Mantova ★★★★★

ミラノから電車で2時間ほど、街が世界遺産になっており旧市街は中世の趣を感じられた。Palazzo Ducale :ドゥカーレ宮にはマンテーニャのフレスコを見に訪れた。彼は宮廷画家として9年間“結婚の間”を制作した。圧倒的な描写力と色彩感覚と、さらに窓のモチーフで展開された壁画空間は素晴らしく見入ってしまった。枠や額に捉われない壁画空間は現代美術と近いものを感じる。またマンテーニャの描く山の色がフレスコならではの淡い色の重なりが美しかった。もっと自身の作品の中にもフレスコならではの色彩を追求するべきだと思った。Palazzo Te :マニエリスムの画家、建築家のジュリアロマーノの壁画をはじめ沢山のフレスコ画を見た。大量のフレスコの中で、ルーベンスの展示が開催されていた。個人的には少し人物が渋滞していた印象だった。時々、ルネサンスの豪華絢爛な壁画群を見ていると日本のわびさびや禅のような何もない空間の美が恋しくなり、日本美術の”間の美”を改めて感じる。



## 3:Pisa ★★★★★☆

ピサには世界遺産でも有名な斜塔はもちろん、カンポサントのフレスコの下地層を展示するシノーピア美術館を目的に訪れた。シノーピアをメインに展示しており、非常に大きいものもあり、綺麗な状態で厚さが1cmにも満たないものもありその保存修復の技術に驚いた。壁画を多く見る中で、壁画らしい複雑なテクスチャーや、図像の一部が絶妙に消えかかったかっこよさなど、もっ



と自身の制作の中で追求するべきだと思った。世界遺産はどこへ行っても少しずつ修復している。世界遺産が一番多い国の理由もよく分かる、それだけ美しく残し続ける努力をしていた。



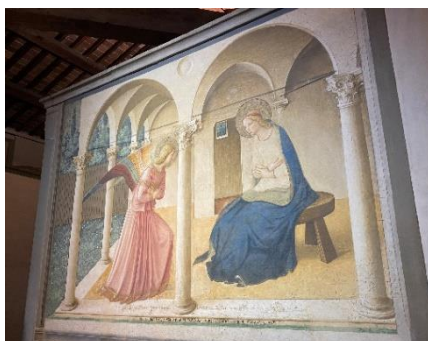
#### 5: Alessandria ★★☆☆☆

女子美の先輩の高橋さんの展示を見に古山さんと3人でミラノからショートトリップに出掛けた。アレサンドリアの町は特に観光地という訳ではなく自然も豊かな小さな街でミラノの喧騒から逃れ先輩方とゆっくり素敵な作品を拝見し、記憶に残るとても良い日だった。



#### 4: Firenze ★★★★★

約10年ぶりにフレスコの顔料を買う為にフィレンツェを訪れた。女子美日本画の先輩で古書の修復をされている近藤さんを紹介して頂き、アトリエを見学させて頂いた。様々なジャンルのアトリエが入っている施設で訪問した前日にちょうどフレスコの修復の工房が入ってきたようだったので、再び訪れたい。またサンマルコ修道院ではフラアンジェリコの受胎告知をはじめとする多くのフレスコ画を見ることが出来た。当たり前のことだが、壁画は建築物と一体となって装飾と絵画の役割を担っていると改めて感じる。メディチ家礼拝堂では象嵌の超絶技巧の装飾も見て、つくづくイタリアルネサンス芸術の質の高さに圧倒された旅となった。



## 5: Piacenza ★★★★★

ブレラで出会った友人の家がピアチェンツァにあり、教会や美術館と一緒に巡り街を案内してもらった。Basilica di San Savino の12世紀の 12 星座を描いた白黒モザイクの動物たちの表情が可愛らしく、とても素敵だった。夜は友人宅にてしゃぶしゃぶを作ってもらった。イタリア人は日本食が好きな人が多く日本食についてよく聞かれた。食事をしながら食べ物のお話をするのも多く、流石美食の国だと思った。また日本の昭和映画にも詳しく、夜は皆で日本映画鑑賞をした。イタリアのリアルな暮らしを知ることができ、とてもいい時間を過ごすことができた。



## 6: Napoli, Pompei ★★★★★

大学院にて壁画技法を学んで以来ずっと行きたかったポンペイ考古学公園へ。発掘されたほとんどのものはナポリの国立考古学博物館へ保管されているが、大きな都市があったことはよく理解でき、暮らしの工夫がそのまま残っていた。秘儀荘の壁画や美しいモザイクの一部は現地に残っており、現在も修復作業や発掘作業が行われていた。言わずもがな秘儀荘の壁画は素晴らしかった。絵が欠けていた部分は大部分修復されて綺麗になっていた。(近くで見ると修復部分は線状に描かれていて本来の壁画と見分けがつくようになっている) 壁画の修復跡をみていると、修復の考え方が場所によって異なってくるのも面白かった。ポンペイは想像以上に大きい都市だった。

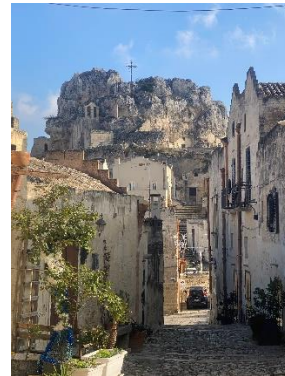
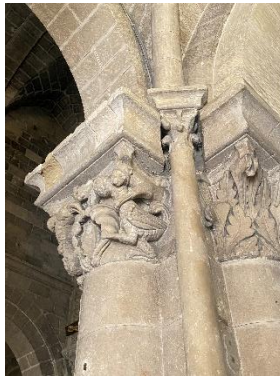
ナポリの街はミラノと同じイタリアとは思えない混沌とした様子、東南アジアを彷彿させる、魅惑的な街だった。 サンセヴェーロ礼拝堂、ナポリ考古学博物館とサンテルモ城を巡った。





## 7:Matera ★★★★★

石灰岩の岩山を掘り出して作られた世界遺産の洞窟住居のある街に13世紀の洞窟教会を見に訪れた。キリスト教の洞窟壁画は初めてで、ウイグル自治区の仏教石窟や南仏の洞窟壁画とも違った構造、色、図像で興味深かった。ムルジェツキアという旧石器時代の集落跡がサッシ（洞窟住居）の向いにあり掘り出したら洞窟壁画が見つかりそうな雰囲気があり、大変美しかった。前日いたナポリに比べ非常に治安が良く夜のマテューラはとても幻想的で話し声でさえ街に響き渡るような、映画のセットのような街だった。



## 8:Brescia ★★★★★☆

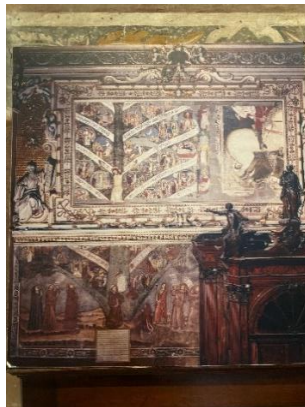
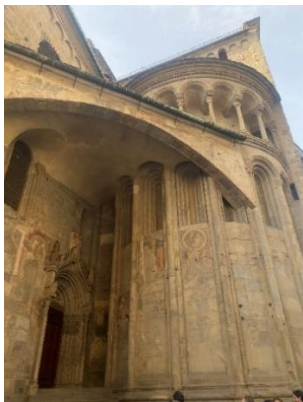
世界遺産のサンタジュリア博物館と市内の旧大聖堂へ。全面フレスコで覆われたプラネタリウムのようなラピスラズリの青い天井が美しい。中央にはロンゴバルド最後の王「デジデリオ」の十字架が飾られており、見惚れる空間になっている。十字架の支持体は割と簡素で埋め込まれている宝石も散りばめるように埋め込まれていてその不完全さが魅力的だった。

旧大聖のは円形のロマネスク教会で今まで見てきたロマネスク教会の中で内部の造りが一番好みの建築だった。



## 9:Bergamo ★★★★★☆

世界遺産の城塞都市と大聖堂へ。新市街から旧市街のある城塞が見える大通りが綺麗だった。大聖堂は外観は初期ロマネスク、しかし内部はバロックの煌びやかな金の装飾が施されており外観とのギャップが面白かった。



#### 10: Varese ★★★☆☆

女子美の先輩方と日帰りで Villa Panza(現代美術館)の Wolfgang Laib の個展へ。全てのコレクションが20世紀のアメリカの作家のものだったのも印象的だった。かつて厩舎やガレージだった場所に作られたギャラリーには、ジェームズ・タレルによるインスタレーションやダン・フレイヴィンの作品が展示されていた。



#### 11: Rovereto, Verona ★★★★★

建築家 Mario Botta のトレント現代美術館へ。展示作品よりも建築が美しく印象的な美術館であった。ベローナでは建築家カルロスカルパが改修したカステルヴェッキオ博物館とサン・ゼーノ聖堂のマンテーニャの祭壇画を見に訪れた。マンテーニャの彫刻的なものの描き方は力強く美しい。ベローナの街は雰囲気がとても良く美しく活気もあり素敵な街だった。





12: Toscana (Sansepolcro, Perugia, Assisi, Pienza, Arezzo, Siena, San Gimignano)

ブレラで出会い、仲良くなった友人たちと車で三泊四日のトスカーナ7都市を巡る旅に出かけた。多くの中世美術の作品を見ていく中で、題材が似たような作品が多い時代でもやはり名前が知られている作家には惹きつける画力や色使い構図のバランス感覚などが圧倒的に優れていると感じた。トスカーナの街の多くは中世の城壁が残っており、それらが世界遺産登録されていることも頷けるほど映画の世界のようで非常に美しかった。車内の移動中では友人たちと其々の国の文化(イタリア、ポーランド)やマナー、食べ物、言語、建築、壁画、家族のことなど、あらゆる話題について話し合ったり、教えてもらったり、音楽をかけてカラオケをしたことは本当に記憶に残るいい旅の思い出となった。

Sansepolcro: ピエロデラフランチェスカの故郷へ初期の作品を見に。同じ作家でもフレスコと油絵だと絵が変わって見えた。《キリストの復活》のフレスコ画の背景は後にトスカーナの風景を見たときに、この作品の背景を思い出した。他の街と違いとても静かな街だった。

Assisi: 土曜ミサに遭遇した。世界中の国からミサに参加する人も多く、ミサは英語で進行されていた。信仰心を強く感じる美しいミサだった。教会壁画が人々の信仰のために描かれている空間だということを再認識することができた。アッシジの壁画のクオリティや大きさは見てきた中でも非常にハイレベルのものだった。

Perugia: ウンブリア絵画館を訪れた。ペルジーノ、バルトロメオ等中世イタリアの作家の作品を沢山見ることが出来た。絵の中の人の手の形や持っているものに大変興味が湧いた。またペルージャはトスカーナ地方で訪れた中で一番好きな街造りだった。

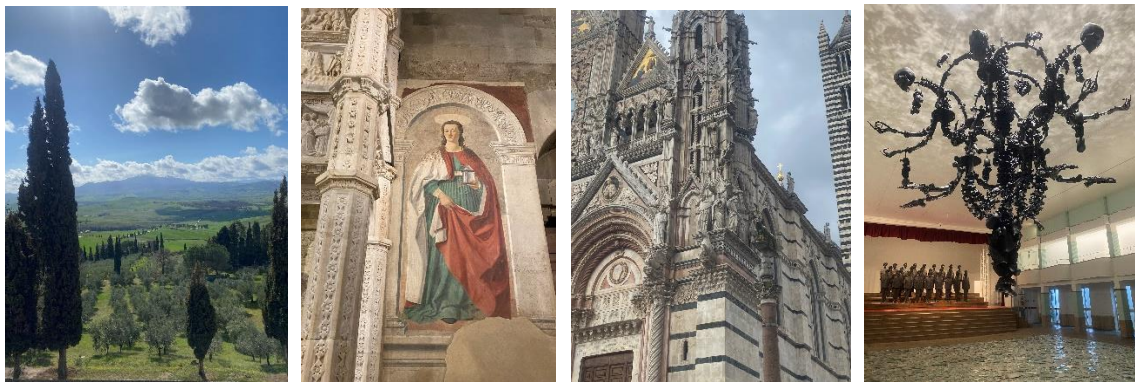


Pienza: 絶景の世界遺産オルチャ渓谷の風景を眺めるために訪れた。広大に広がる美しい田園風景に家や糸杉が絵のように大変美しかった。また中世からの温泉地バーニョ・ヴィニョーニの街にも訪れた。日本のように高温の温泉ではなく効能やスパ感覚で利用するらしい。

Arezzo: ピエロデラフランチェスカの壁画とチマブーエの十字架を見にサンフランチェスコ教会とサンドメニコ教会へ。特にピエロデラフランチェスカは初期の絵と比べて上達している様子を比較できることも面白く、明るい色使いが他の作家と比べて現代性を感じた。

Siena: 街並みと地域の食を楽しみに。名物のパスタピチやパンフォルテを頂いた。イタリアは日本のように各地によって名物があり、イタリアの食の多様性を沢山知ることができた。イタリア人の友人から食べ方やおすすめも教えて貰い、美術に限らず情報量の多い旅となった。シエナ大聖堂の階段で使われていた大理石が特段に美しかった。教会の中でよく見られる大理石風のフレスコ(Finto marmo)があるが、フレスコで大理石を表現する技術を開発した人々の技術力と努力に感心する。

San gimignano: 美しい塔が建つかつては宿場町として発展した世界遺産の街にある Galleria Continua へ。パリにもあり、ユニークなセクションとリノベーションですごく好きなサンジミニャーノ発祥の現代美術ギャラリーだったので訪れることができ、久しぶりに現代美術が見れたことも嬉しかった。かつて映画館だった場所をギャラリーにリノベーションし、ある意味「忘れ去られた」地域、期待されていない場所で刺激的で挑戦的な現代作品を展示し 30 年かけて進化し続けているギャラリーのひとつでギャラリー設立のコンセプトにも感心する。展示では特に Ai weiwei のムラーノガラスで造られたシャンデリアが印象的だった。



### 13. Cinqueterre , Genova ★★★★★

イタリアはつくづく魅力的な街に溢れており、驚かされる。チンクエテッレの街並みを高台から見下ろすと、ミニチュアの模型をみているような、小さな街に様々な人や生き物の暮らしが詰まっている様子がとても美しい。ジェノヴァは想像よりも大きい素敵な港町だった。港にはジェノヴァ出身の世界的建築家レンゾピアノの存在感のある大きなオブジェが印象的だった。(本場のジェノベーゼも本当に美味しかった。)





#### 14: Sicily (Paremo, Cefalu, Monreale, Piazza Armerina) ★★★★★

ビザンティンモザイクを見にシチリア4都市へ。モンレアーレ大聖堂はラベナよりも 1.5～2 倍の大きさと圧巻の金箔モザイクであった。中でもピアッツァアルメリーナの Villa Romana del Casale の床モザイクは想像よりも圧倒的な規模で特に感動した。4世紀ごろに建設され、浴場、サウナ、ジムなど含む50以上の部屋から成る別荘である。商人が闘技場の為にアフリカから運ばれる動物の肉体の表現は力強く見応えがあった。狩猟の様子や古代オリンピックで円盤をもつビキニの女性のモザイクもあり宗教や神話の題材だけではなく、当時の暮らしぶりを想像できるようなモザイクも他にはない特徴だったので面白かった。チェファルーの海で泳いでいる人を見た時にビキニの乙女のモザイクを思い出し、写真はなくてもその時代の様子を石(テッセラ)を通して未来人に伝えることが出来ることに芸術の永さを感じ、見に来て良かったと心から思った。



#### 15: Ferrara, Bologna ★★★★★☆☆

スキファノイア宮の「12 カ月の間」と呼ばれるフレスコ画を見にフェラーラを訪れた。題材はキリスト教壁画とは違い、ギリシャ神話を基底に12カ月の移ろいが多くの人物と生き物たちが自由に描かれており、見応えがあった。大規模な修復も終わったようで、窓を塞いだうす暗い照明も美しくフレスコを鑑賞することができた。またボローニャ国立絵画館ではペルジーノ、ラファエロの作品を見た。この美術館にはシノーピアの展示やでフレスコ画が額縁に入った作品を見られたのも印象に残った。



#### 16:Pavia ★★★☆☆

ロンバルドゴシック建築のパヴィア修道院を訪れた。あたりはなにもなく”沈黙と静寂”な雰囲気、現在も修道士たちが自給自足をして生活している修道院。遠くから離れてみた時の修道院の佇まいと形態が見てきた教会や大聖堂と違い幻想的で存在感のある修道院だった。



#### 17: Roma ★★★★★

主に中世美術史の授業で紹介された 4c～8c のフレスコとモザイクと近代建築を巡った。最も印象的だったのは、Basilica di San Clemente al Laterano。モザイク、マゾリーノのフレスコ、地下にある 4 世紀の教会と 1 世紀に造られた神殿と邸宅跡と見どころが多く時代錯誤するような空間だった。最下層にある邸宅跡は水道の設備があり、現在も水が流れていた。またフォロロマーノ内にある 6～9 世紀に描かれた壁画が残る Santa Maria Antiqua 教会も興味深い。時代を経ていくつかの絵がレイヤーのように重なった壁画が美しかった。9 世紀の地震によって埋もれ、1980 年代から約 30 年間修復作業で見ることができなかったそう。ローマ市内にある Gagosian gallery の大きさにも驚いた。ムッソリーニの時代に建てられたファシズム建築、現在は FENDI の本社として使われる近代建築も見に訪れた。





## ■モロッコ(マラケシュ)

ミラノから片道飛行機3時間程でいくことが出来た。ちょうど到着した日からラマダンが始まった。以前パリの国際大学都市のモロッコ館に住んでいたのが初めて訪れた国だったが、少し懐かしくも感じた。ベンユーセフマドラサ(イスラム神学校)、マジョレル庭園とイブサンローラン美術館へ訪れた。スペインのアルハンブラ宮殿やシチリアでもイスラム建築の影響を受けているものを見たことがあったが、初めてのイスラム圏で、街に定期的に鳴り響くアザーンや街中にあるモスクへ多くの人が出入りするのを見て、イスラム教徒の信仰が生活の中に根付いていることを実体験した。マジョレル庭園はマラケシュ市内の喧騒から離れ、自由に居心地のいい場所だった。



## 6. イタリア生活

### ■ 日常生活

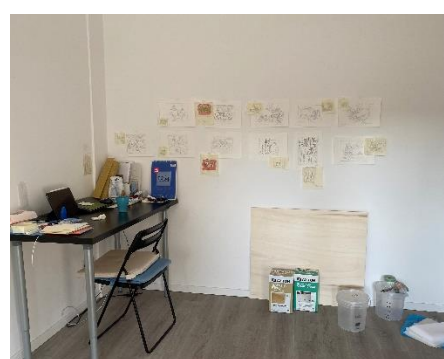
イタリアでの毎日は刺激が多く、周りの支えてくださった方々のおかげで沢山の経験ができ、半年間という期間が一年くらいに感じるほど充実した時間を過ごすことができた。最初知り合いも少なく寂しい気持ちもあったが、古山さんが本当に快く色んな会に呼んでくださり、徐々に友人も増えた。友人たちとの Aperitivo の時間やスカラ座、AllianzMilano(バレーボール)の試合、クリスマスマーケット等、ミラノを出るときには後ろ髪がひかれるほど思い出が沢山できた。

そしてイタリアといえばやはり食文化も興味深かった。家のキッチンが使い心地がよく、イタリアならではの食材を買い、自分で調理してみることも楽しかった。何よりも旬の野菜や果物が新鮮で東京と比べてとても安く美味しいものが手に入った。Esselunga(スーパー)には大根や小ねぎなどアジアの野菜も売られていた。レストランで頂いた、プラントベース(かぼちゃやビーツ等)の現代的な今まで食べたことのない前衛的なパスタも面白かった。旅先での伝統料理も旅の中での楽しみでもあった。フェッラーラで食べたショートパスタの入ったトリュフソースのコロッケやナポリのトマトの海鮮パスタ、シチリアのベルガモットのグラニータ等美食にも溢れた旅でもあった。



### ■ 住居

滞在させていただいた住居は Metro2 番線 Romolo 駅から徒歩10分ほどの Naviglio 運河の近くのアpartメントだった。リノベーションしたてで家具や設備も新しく、コンパクトで綺麗で過ごしやすい部屋だった。またミラノは東京と比べると駅周辺など場所によっては治安もやや悪いと感じる場所もあったが、パリと比べるとメトロも綺麗で治安も大分良いと感じた。制作に行き詰ったときには運河をぐるっと歩くのも気持ちがよかった。



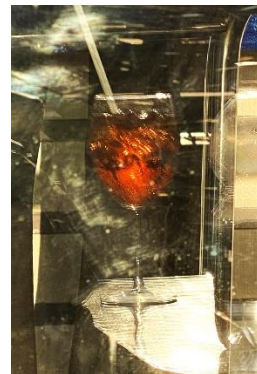


## 7. イタリア滞在を通して印象的だったこと

イタリア人は大人数の食事でも近くに座る人たちが凄く気を使って英語でその都度訳してくれる優しい方が多い印象だった。(フランスでは大人数のフランス人の中で食事をして誰も気にせず早口のフランス語で討論を始め、何について話しているか聞かないと教えてくれず、はじめのうちは全くついていけず苦しいことが多くあった。)日本人が多くはないため、自分がマイノリティに感じるが多かった。

イタリアではあちこちで修復作業が行われている。壁画を見ていても、大事に修復され大切にされていることがよく分かった。日本は古いものよりも、新しいものばかりを追求しすぎているように見える。またイタリア語でルネサンスは”rinascimento”フレスコは”affresco”。イタリアのものであるのに、イタリア語では知らなかった言葉が多くあった。

2 年前の 2022 年、芸大でお世話になった元ラヴェンナ国立博物館の館長のチェッティ先生を尋ねてラヴェンナを訪れた際に、”オレンジはビザンティン時代のモザイクにとって特別な色”と教えてもらった。以来、イタリアの食前酒 Aperol spritz を見ると、ラヴェンナの空気、モザイク、アラバスタの色を思い出す。



## 8. 今後の制作活動

今回の滞在を通し、沢山の壁画を見る中で最も興味を持ったのが、時代の変遷による”絵のレイヤー”と”建築的要素”がみえること、これらを意識した作品を制作していきたい。またイタリア中世の画家たちの使う美しい色味の組み合わせも参考にしたい。

そしてもうひとつ興味深かったのが Finto marmo である。教会の壁画装飾でよくみられる壁画技法である。これは大理石風のフレスコ画のことで、場所によって表現力も技術力も様々であった。この技法を習得して作品にもいかしたいと考える。

また今年の6月より再びパリに戻り滞在制作を続ける。イタリアで吸収したローマから中世美時代の壁画を思い返しながら、刺激的な現代美術に溢れるパリの街で作品制作と言語化に努める。今後もヨーロッパを拠点に日本とヨーロッパで活動が続けていく。

## Finto marmo



・Cappella degli Scrovegni(PD)



・Cattedrale di San Lorenzo(PG)

## さいごに

イタリア中世美術を現地で見て学べたことで確実に視野が広がった。渡伊前はフランスに拘っていた自分もいたが、イタリアを知らずにフランスにいたら少し恐かったかもしれない。他国と比較できたことは、これからどんどん変わる世界の中で生きる為に、自分の目で状況を判断して、選択することへの判断力、行動力と自信にも繋がったと思う。パリに戻り、滞在制作を続ける予定であるが、また違う様にパリを感じる中で、制作に邁進したい。実際に経験することと、写真で見たとでは情報量が大きく違う。現地には生きた情報がある。重要なイタリア美術史を実体験し、後世に残る芸術の力強さと質の高さを感じ、圧倒され感動した経験は本当に貴重で幸せな時間だった。

最後になりますが、イタリアへの渡航にあたりお世話になりました方々、滞在中に支えてくださった皆様に改めて心より感謝申し上げます。